

資料⑤

今後に向けて

札内川技術検討会(第6回 平成25年10月8日)

(1) 引き続き検討する事項

- ・ 第6回検討会での指摘を踏まえた検討
- ・ H23年出水の検証

着目点：変化が大きかった箇所と小さかった箇所の特徴
旧川の状況と変化発生箇所・規模等の関係 等

- ・ 河岸侵食箇所の精査

着目点：大きな侵食が発生した箇所と侵食がとまった箇所の状態、特徴
河岸部の樹木の根と河岸侵食状況の関係 等

(2) モデル区間における将来予測 (iRIC等)

- ・ 河道攪乱状況の特性を把握

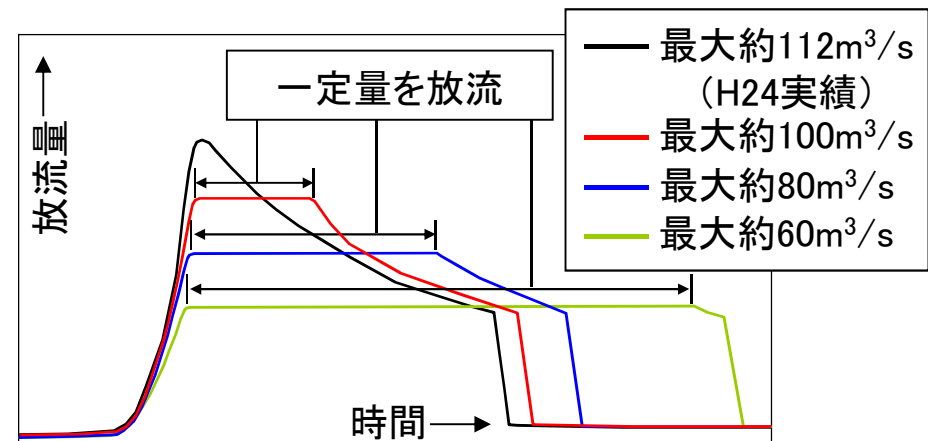
着目点：河道攪乱（樹木流出、侵食、堆積）箇所の河道形状や
平面的な水理諸量 等

- ・ 効果最大化の方策の立案

着目点：効果的に流路変動を促す方策
（上記で把握した特性を考慮
したきっかけづくり）

- ・ 効果の大きい放流パターンの検討

着目点：攪乱を促すことが可能な放流量の継続時間（右図）



(3) 目指すシフティングモザイクの設定

- ・ 再生の管理幅

着目点：ダム放流等により期待される攪乱幅を考慮した管理幅の設定

- ・ 攪乱のサイクルスパン

着目点：河道内の樹木の樹齢、樹種構成、大きさ、種子をつける樹齢（母樹の更新サイクル）の把握

上記を考慮したシフティングモザイク 1 サイクルの年数 等

(1) 第6回検討会以降

①今後の流量等の観測について：H25年度計画とH26年への改善点

着目点：精密な流量観測の継続（ADCP等）

引き込み工区の旧川の河床材料縦断変化、水位・流速の把握

河道内地形の把握（水位低下時のLP計測等）

②放流効果の最大化に向けて：H25年の結果を踏まえた新たな取り組みの計画

着目点：H25旧川引き込み工区のモニタリング継続（変化状況把握）

新たな旧川引き込み

⇒侵食の深さや規模が大きな箇所での引き込み

現況の主流路から旧川への切り替え

水衝部の樹木除去による侵食や流路変動等の効果把握

旧川引き込み掘削等により発生した砂礫の河道内への還元

③放流影響、環境調査について：目標の設定に資する調査

着目点：河川水辺の国勢調査の活用（H26年度は植物調査）、攪乱のサイクルスパンの把握

種子散布している樹種と樹齢を把握等

(2) 第7回検討会（2月予定）

- ・第6回での意見等を踏まえ、平成26年度実施計画を策定
- ・H25年度実施の環境調査の報告

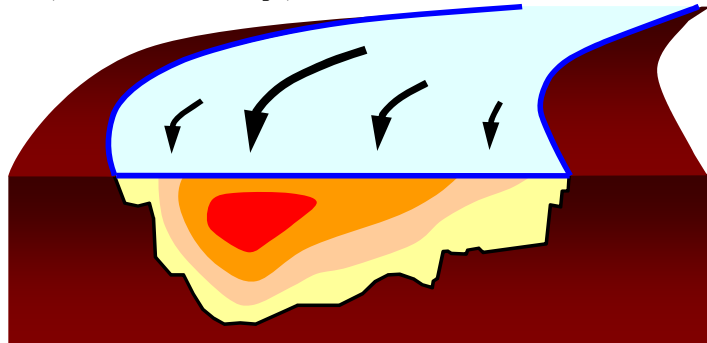
(3) 平成26年度

- ・ダムからの放流（予定）

①今後の流量等の観測 (河道の攪乱状況の把握) について

以下の調査・検討を実施予定

■流量観測の精度向上の取り組み継続 (ADC P等)



平面的な水深・流速等の把握

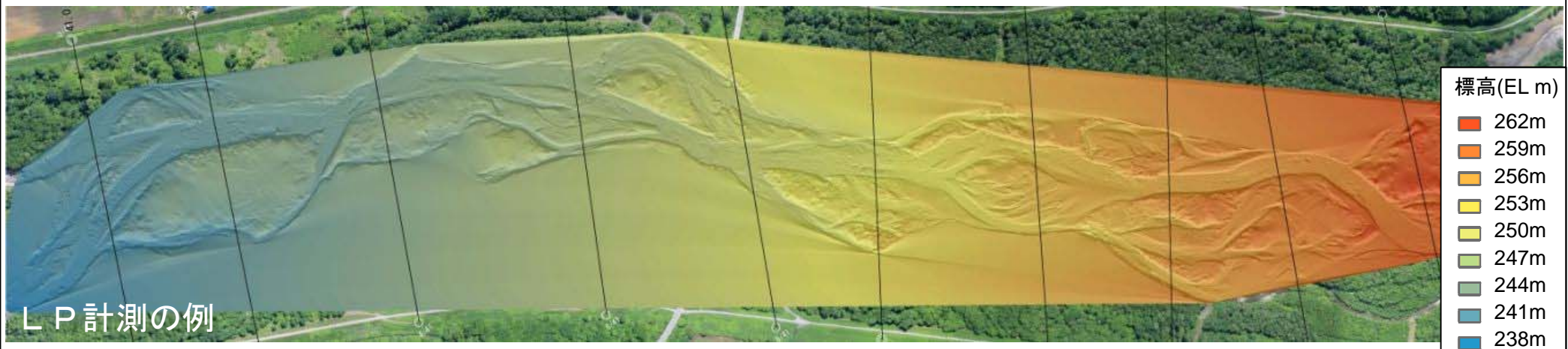
■引き込み工区の旧川の河床材料縦断変化、水位・流速の把握



● 河川水位・流速観測 (旧川の水位変化、流量の把握)

● 河床材料調査 (引き込み部から旧川出口まで縦断的な変化を把握)

■河道内地形の把握 (水面反射による地形データ欠測を防ぐため、水位低下時にLP計測実施)



LP計測の例

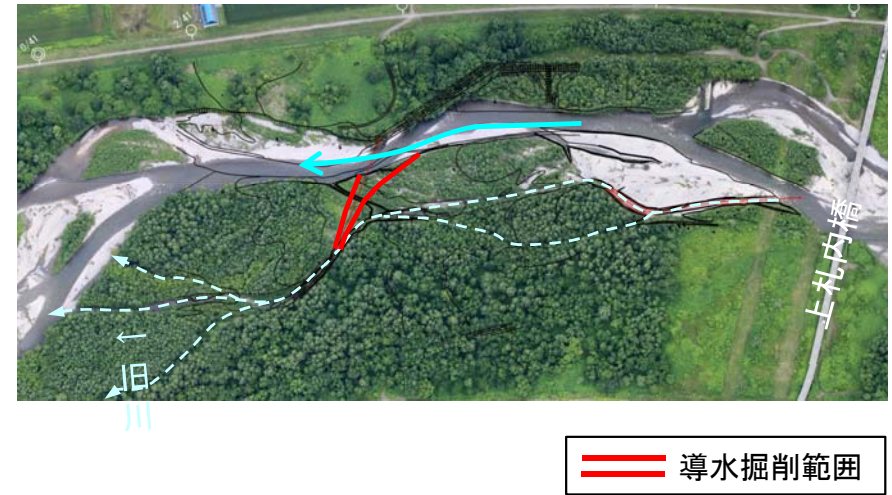
②放流効果の最大化に向けて

H25年の取り組みの結果を踏まえ、以下のような新たな計画を検討

■侵食の深さや規模が大きな箇所での旧川引き込みの検討



■直線状の主流路から角度をつけた旧川への切り替えの検討



■水衝部の樹木除去による侵食や流路変動等の効果把握



■旧川引き込み掘削等により発生した砂礫の河道内への還元の検討

